



大分県立竹田高等学校
関東同窓会報
第65号

発行者・会長 都 俊生
編集者・委員長 衛藤 淳
発行所・関東同窓会事務局
〒194-0013
東京都町田市原町田4-17-20
電話 090-2646-4808

<https://kantoutaketa.org/>



後藤忠勝先生近影

ストーム今昔

戦い勝てりうま酒を……!

今を去る事60余年。夕暮れが迫ると運動会(体育祭)後の「ストーム」が始まりました。運動会のファイナルに、各色軍団が山から切り出した木の枝などで組み上げた砦を解体し、文化祭の塵芥を校庭の中央に積み上げ、これを燃やしました。その周りを全員で取り囲み氣勢を上げる、いわゆる「ストーム」本番です。このスタイルはファイアは無くなったものの現在も続いておりますね。

当時の様子を残った記憶を思い起こして記しましょう。

当時はフォークダンスの後、男性オンリーとなり、女性は加われず遠くから眺めておりました。恐らく女性が加わったのは

恩師からの便り

後藤 忠勝 先生

昭和63年～平成8年、平成13年～平成14年

理科教諭

女性の生徒会長が誕生してからと思いますが、はつきり覚えておりません。とにかく男性のみです。現在とは異なり、かな

り手荒いものでした。

始めはおとなしく竹高健児の歌を歌ったり、名物教師の教え歌などを歌いながらゆつくりステップを踏んでいました。ポルテージが上がるにつれて、興奮の度合いも増します。ステッ

プを踏む足は高くあがり、後ろも思いきり蹴り上げ、体は前後にローリングします。そのうち輪は小さいグループに千切れていき、互いの輪はぶつかり合っ

て殴り合いや蹴り合い、もう喧嘩でしたね。

会も後半になりますと、教師の勤務評定が始まります。平日



競歩大会での勇姿

クシヤ。さらに、逃げたら山の上まで大勢で追いかけます。やじ馬も加わり、何で追うのか分からぬまま走りました。いわゆる群集心理でした。運動部活のシャツを借りて輪の中に飛び込めば、好意的に受け止められ、被害は最小になります。事前に事を察して逃げようとする教員は、見張りが追い返しました。

散々に狂い回り声は涸れ、足腰も動かなくなりました。生徒会歌斉唱、万歳三唱でフィニッシュとなりました。

この様なスタイルはいつまで続いたのでしょうか。

さて、現在私は新しいエリア「詩吟、短歌」に挑戦しております。悪友は病人を運ぶ担架かと冷やかしますが、「あれは担架で私の短歌」だと言ってお

ります。発音は同じです。写真は競歩大会に参加していた時のものです。着ているシャツは卒業生から贈られたものです。510はゴトウと読みます。この写真は私の宝物です。

往時はストーム歌が多数あった!!

後藤忠勝先生より昭和34年のストームの際の替え歌をご提供いただきました。たくさんある中の一つをご紹介します。当時を知る同窓生には懐かしいことでしょう。

「竹高節」

- 一 弁当靴に詰め込んで 学校の後で集まって 職員室でしぼられる これが竹高さ
 - 二 三千年のその昔、大西洋の海賊が 話した言葉がわかりようか そんな英語はやめちまえ
 - 三 アルキメデスやパスカルが てんでにかいた幾何模様 どうしておいらにわかりようか そんな数学止めちまえ
 - 四 兼好法師のお説教 光源氏の軟派スケ知っても少しも得はない くだらん国文やめちまえ
 - 五 クレオパトラや楊貴妃の恋したことが書いてあるでたらめなんか知るもんか そんな世界史やめちまえ
 - 六 孔子や孟子が酒飲んで 一杯機嫌でほら吹いた でたらめなんか分らない くだらぬ漢文やめちまえ
- 《まだ続きますが割愛》

最後になりましたが、皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。筆をおかせていただき

作家・諸田玲子先生の特別講演が実現!!



作家・諸田玲子先生

2025年6月21日、第39回竹田高校関東同窓会総会及び懇親会を開催します。

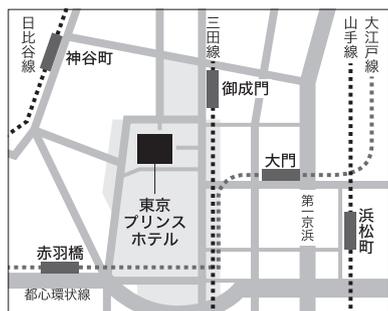


代表幹事 当番 衛藤寛さん (昭59年卒)

今回は、特別講演としてゲストに、日本経済新聞朝刊に歴史小説『登山大名』を連載中(2025年3月末日まで)の作家・諸田玲子さんをお招きします。

日本経済新聞は、紙面と電子版を併せ235万部が発行される全国紙です。歴史小説『登山大名』は、竹田市のシンボル岡城と大船山を舞台に、天下の七

第39回 総会・懇親会	
日時	令和7年6月21日(土) 11:15~15:00 (受付開始10:30~)
総会	11:15~12:00
特別講演	12:00~12:30 [講師] 諸田玲子先生
懇親会	12:50~15:00
会場	東京プリンスホテル 東京都港区芝公園3-3-1 TEL03-3432-1111



人の故郷への想いからです。「小説を毎朝読むたびに、故郷の歴史文化、自然の素晴らしさを再認識し、誇らしい気持ちが大きくなっていきます。故郷の歴史文化、自然の情景が目につく小説の作者にお会いしたい、そして同郷の皆さんと、郷里への自信と誇りを再認識したいとの想いがあります。

昨年竹田市では、竹田市歴史文化館・由学館の市民ギャラリーにて『登山大名』を挿絵原画27点(画・安里英晴氏)などで紹介する「中川久清と小説『登山大名』の世界を楽しもう!」展など関連イベントが多数開催されています。地元でも盛り上がりを見せる中、本会ではまたとない作者ご本人にご登壇いただきます。

さらに、その場で諸田さんのサインがいただける著書の販売なども盛り込んだ企画が進行中です。残念ながら『登山大名』は2025年10月書籍化予定ですので、3月刊行の『織部の妻』を販売します。こちらも竹田市と関連深い小説です。中川家はもともと現大阪府茨木市(竹田市と歴史文化姉妹都市です。)の茨木城主ですが、城主の次男が縁あって岡藩主となります。その時代を背景とした前夜となる小説が『織部の妻』です。余談ですが茨木市といえば、この茨木市で育ったかの文豪川端康成氏が小説『千羽鶴』を執筆中に久住を訪れていた酒造さんの銘柄の由来となっているお酒があります。毎年懇親会テーブルに置かれている『千羽鶴』(例年濱口鈴子さん寄贈・昭26年卒)のことです。茨木市と竹田市は文学やキリシタンについても関連深く、両市が諸田

さんの小説でみごとに紐づけされているのです。当日は例年よりも10分延長して30分の講演をいただく予定です。関東同窓会でなければ実現できなかったかもしれない諸田さんの講演「『登山大名』に込めた竹田市の歴史と謎」(仮題)に、ぜひご期待ください。また、懇親会中には活動を再開した「竹田市ひばり少年少女合唱団」の元気な歌声を映像とともにご披露します。例年通り郷土の物産品も懇親会の会場内で販売します。今年も竹田市で140年の歴史をもつ姫野一郎商店の名産品を幅広く取り揃える予定です。多くの皆様のご参加を当番幹事、事務局一同お待ちしております。



「総会・懇親会」の出欠連絡はホームページからお願いします

スマートフォン・タブレットをお持ちの方は、この2次元コードを読み込んでご利用ください。



【注意ください】
出欠連絡をホームページから行った場合は、本誌同封の「返信ハガキ」を利用しないようお願いいたします。連絡が重複して混乱すること、返信ハガキの「送料軽減」のためです。ご協力をお願いいたします。

会長
あいさつ

総会・懇親会にご期待を!!



竹田高校関東同窓会会長
都 俊生
(昭44年卒)

新緑の候、会員の皆様方にはご健勝にてお過ごしのことと拝察申し上げます。

内外ともに経済社会情勢の先行き不透明感が増しており、特に日本では円安の高止まりと物価高が続いており、国民の生活不安も高まっています。

こうした環境は同窓会運営にとって厳しいものがありますが、会員の皆様のご協力をいただき、活力ある同窓会を継続して参りたいと考えております。

さて、今年も当番幹事の皆さんの粘り強い取り組みにより、素晴らしい企画が実現しました。昨年2月から今年3月まで日本経済新聞に連載された小説『登山大名』の著者「諸田玲子氏」のご講演をいただけることとなりました。

岡藩第3代藩主中川久清公は自然を愛し登山を好む人物でしたが、農業振興や教育の充実に力を入れ、藩民の生活向上に力を尽くすなど、施政においても優れた実績を残した名君

だったとのことです。

ふるさとの美しい自然を愛し、ふるさとの発展を願って止まない会員の皆様にとって、こうした先人の存在に尊敬と感謝の念を抱くとともに、その生き様に大きな共感を呼び起こされるものと期待しております。ぜひ、同級生を誘い合いたくさんの会員が出席されるようお願いいたします。

昨今、電話やメールを使った詐欺事件などが頻発しており、会員相互の連絡が取りにくい状況が生まれています。こうした同窓会という機会を捉えて、お互いの電話やメールの再確認をするなどして、仲間との繋がりの再構築を図っていただければ幸いです。

最後に、事務的なお願いがございます。例年、同窓会当日に出席者の名前と卒業年次を掲載した「出席者一覧表」を配布しておりますが、個人情報保護法遵守の観点からこれへの掲載について同意をいただくこととなりました。「出席者一覧表」作成に当たって法的要件整備を行うものです。どうぞ事情ご理解のうえ、「出席者一覧表」への名前掲載にご同意をいただきますようお願い申し上げます。

令和7年 春の役員会・幹事会報告



幹事長
後藤 修
(昭50年卒)

令和7年4月5日(土)銀座プロッサム中央会館にて役員会・学年幹事会が開催され、以下の事項について協議しました。

■令和7年度関東同窓会総会・懇親会の開催について

企画委員長から、今年の総会・懇親会は東京プリンスホテル プロビデンスホールにて2025年6月21日(土)に開催予定である旨が報告されました。

総会では、当番幹事である昭和49年、59年、平成6年卒の方々が、今年の3月末まで日経新聞朝刊に連載された時代小説『登山大名』の作者である諸田玲子氏をお迎えしての講演会を企画。『登山大名』の主人公は、江戸時代初期に豊後国(現在の

大分県) 岡藩の第3代藩主中川久清で、幕府への反骨を胸に大胆な藩政改革に取り組んだ内容です。
演題は「登山大名に込めた竹田市の歴史と謎」で、著書に込

めた熱い思いを作者自ら語っていただけるものと期待しています。

併せて、懇親会においては竹田市で活動する「竹田市ひばり少年少女合唱団」の合唱動画を放映する予定です。

また、例年通り郷土の物産品も販売する予定で、定番の「三笠野・荒城の月話合せ」に加え、姫野一郎商店が販売している名産品を幅広く取り揃える旨が報告されました。

■関東同窓会の収支状況について

総務委員長から、総会・懇親会の参加者は昨年比20名減の182名で、総会収入は14万6千円の減収。一方、料理をビュッフェ形式に戻し、その他の支出も予算の範囲内であったことで、総会費用は昨年比約41万円減少。さらに維持会費は昨年並みの金額を納入していただいたほか、経常費用では企画会議等の会場について会員の勤務先会議室を無償で提供いただくなど貸会議室等利用のコスト削減が功を奏し、昨年比20万円程度の減少となり、通期ではほぼ当初予算通りの着地であった旨が報告されました。

■組織拡大策について

組織委員会から、組織拡大策の一環として、まずは昭和50年卒から平成6年卒までの学年幹事について、連絡先の再確認並びに学年幹事不在の年次に対する新規学年幹事依頼等を各委員会の助けを借りて実施し、連絡の途絶えていた学年幹事の新規連絡先入手、学年幹事不在の学年について新規学年幹事の承諾、加えてこの調査において新たな会員の確保ができた旨の報告がありました。

■同窓会ホームページおよび大志文庫の運用について

広報委員長から、会報誌『臥牛』の編集発行に加えて、ホームページの運用活性化のため副委員長2名(後藤里見氏・内田威氏「いずれも平成5年卒」)が任命され、その結果、記事投稿も活発になり更新頻度も向上したことで、および昨年は「総会・懇親会」への出欠連絡をホームページから申し込みができるように工夫し、多くの方に利用していただいたこと、並びに広報委員会担当の母校への図書寄贈(大志文庫)も継続しており本年度も10冊を寄贈するなど、若年層の図書離れが問題化する中で、他に例を見ない試みとして今後も注力する旨が報告されました。

※「収支報告」は8ページ

母校の話題

新しい伝統「スプラッシュ・ストーム」
山岳部、書道・吟詠部が活躍



大分県立竹田高等学校 教頭 小野 鉄次郎 先生

4月、入学式からわずか3日後に歓迎遠足が行われました。岡城跡までの日本一短い遠足ですが、生徒会役員が中心となって歓迎行事を盛り上げてくれたおかげで、帰り道では新入生の列に笑顔がはじけていました。

5月から6月にかけて体育部3年生にとって県内での最後の公式戦となる「県総体」が開幕し、皆精一杯のプレーを見せてくれました。
そのなかで山岳部(縦走競技)女子が昨年度に続いて優勝



山岳部女子インターハイ

し、インターハイへの切符を手にしました。

7月、いよいよ受験に突入する3年生が阿蘇青少年交流の家で2泊3日の学習合宿を行いました。勉強漬けの3日間でしたが、帰路につく頃には引き締まった「受験生の顔」になっていました。この合宿の往復のバス料金については、同窓会の支援をいただきました。この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。



3年学習合宿

8月、書道・吟詠部が全国高等学校総合文化祭(岐阜大会)に出場し見事な書道吟を披露しました。また、山岳部女子がい

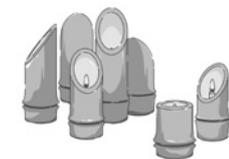
ンターハイ(北部九州大会)に出場しました。結果は全国で14位でしたが確かな手ごたえを感じたようで、来年度は全国トップ8に手が届きそうです。まさに古豪復活を予感させる納得の競技内容でした。これら全国大会出場に際しても同窓会からご支援をいただいています。あらためて本校同窓会の後輩への変わらぬ愛情に深く感謝いたします。

9月、本校最大の行事である臥牛祭文化の部・体育の部が開催されました。臥牛祭においてここの一番の場面で行われるのはもちろん「ストーム」です。かつてのように「ファイヤー・ストーム」というわけにはまいりませんが、文化の部では水浸しになりながら舞う「スプラッシュ・ストーム」が定番となっています。
10月、大分のケーブルテレビから学校紹介の取材を受けました。軽い内容のものですが、現在でも



臥牛祭・文化の部(ストーム)

YouTubeで見ることができずので、ぜひご覧になってみてください。(YouTube「大分ケーブルテレビコム」竹田高校で検索を！)



11月、竹田の冬の風物詩「竹楽」の準備に今年も1年生が参加しました。廣瀬神社の長い石段に竹灯籠を並べながら、生徒たちは「地域とともにある学校」を感じてくれたことと思います。

12月に実施した修学旅行に際し、関東同窓会の皆様にはご多用の中、生徒との対話の時間を作っていただき大変お世話になりました。



修学旅行(関東同窓会との交流会)

日頃、教員以外の大人と接する機会のない生徒たちにとって、故郷を離れ大都会で活躍する皆様と交流させていただくのは貴重な経験です。

交流会後の生徒の感想を見ると、皆さまからのお話を自分の将来像と重ね合わせて拝聴している様子がうかがえました。本当にありがとうございます。

1月、3年生は大学入学共通テストに挑み、現在は国公立大学前期試験に向けてラストスパートをかけているところです。生徒一人一人の努力が実を結び、4月には同窓会の皆様にも「うれしい報告」ができるものと確信しております。今後とも、本校教育活動にご理解をいただくとともに本校生徒へのご支援を賜りますようお願いいたします。

生窓
登場

常に時代を先取り
90歳の今も後進をリード

平本 照磨さん (昭29年卒)



[平本 照磨さんのプロフィール]

株式会社アルク 創業者最高顧問。
1935年満州国生まれ、1959年早稲田大学文学部
中退。国際会議の仕事をする中で、日本人の国際コ
ミュニケーション力や使える英語力の弱さ、日本の英
語教育のあり方に疑問を抱き、1969年、株式会社ア
ルクを設立。1971年、月刊誌『ENGLISH JOURNAL』
を創刊。以来「地球人ネットワークを創る」をスロー
ガンに掲げ、メディアミックスによる新しい語学教育
を目指す。2020年、株式会社Selanの特別顧問に
就任。

母の生家である玉来で12歳か
ら18歳まで6年間を過ごしまし
た。
父が軍人だった関係で満州の
大連で生まれました。終戦は10
歳の時でした。当時、現地の小
学校は、日本人学校は机と椅子

があり、中国人の学校は両方と
もありませんでした。それが終
戦のとたんに逆転したことを鮮
烈に覚えています。終戦から帰
国まで2年もかかったのは、父
が立場の弱い人たちを優先的に
帰国させるように取り組んだか
らだと聞きました。京都の舞鶴
港に着きましたが、父の実家の
東京の牛込かいわいは焼け野原
だということ、そのまま母の
生家に向かったのです。

竹田高校では勉強しない生徒
でした。授業中に窓から抜け出
して裏山で遊んだりしたもので
す。そういう意味では後輩には
けっして立派なこととは言えま
せん。

高校卒業後、大学進学のため
に東京に出てきました。そして
国際会議の運営会社で働くよう
になりました。自身でも通訳の
資格をとりました。その会社で
は在日アメリカ軍の施設であっ
た山王ホテルに関係がありまし
た。その支配人からアメリカ人
向けの観光ガイドブックを英語
で作ってもらえないか、という
相談を私が受けました。私は
「これはチャンスだ」と直感し
ました。会社に帰って社長に相
談したところ「出版などはやら

ない」という回答だったのです。

実は私は山王ホテルさんの手
前、引つ込みもつかなくなって
いたのです。そこで社業以外で
自分でもできるのではないかと
考えたのです。思い切った社
長に個人で受けてもいいかと打
診してみましたところ、了解し
てもらいました。このようにな
きっかけて始まったのが、のち
にアルク創業に発展したのです。

会社名のアルクは、自由創
造者集団 (Associated Liberal
Creators) を意味しています。
これがアルクの社名にちなんだ
企業精神です。また「地球人ネッ
トワークを創る」というビジョ
ンを掲げました。当時の日本の
英語教育は文法や単語の暗記な
どが重視される

反面、コミュニ
ケーションは後
回しにされてい
ました。これは
その後、ずっと
一貫して指摘さ
れながら改善さ
ていない課題で
す。

私は英語学習
はもともと「自由
でよい」と強く
感じていました。
そして実戦で使
える英語力を習
得するために雑
誌『ENGLISH

JOURNAL』を創刊しました。

このような雑誌は当時はなかつ
たです。しかも、この雑誌では
国際会議で使われている英語を
そのまま教材にするような内容
になっていました。さらにカ
セットテープを雑誌に付けまし
た。これが画期的で多くの人々
から支持されました。

『ENGLISH JOURNAL』に続
いて『ヒアリング・マラソン』
という教材を開発しました。
『ENGLISH JOURNAL』が国際
会議での英語を素材にしていた
ため、少し難しい内容になって
いました。そこで初心者にも効
果がある教材として考案された
のが『ヒアリング・マラソン』
でした。とてもインパクトのあ



英語教材として独自の地位を占める『ENGLISH JOURNAL』(右)。
『自由の風』(左)は平本氏が社員に向けて発信し続けたメールマガ
ジンを冊子にまとめたもの。社員に自由であれ、地球人ネッ
トワークを創ろう!と呼びかける貴重な資料

る良いネーミングだと思いま
す。が、「マラソンしながら聞くの
ですか?」と真面目に問い合わ
せる方が少なからずいたもの
です。

こうしてヒット商品にも恵ま
れて英語学習の分野で独自のポ
ジションを占める会社に成長す
ることができました。

実は私自身は作家になりた
かったのです。アルクが成長
したおかげで、後に『SEVEN
SEAS』というグラフィックともい
えるクオリティの高い雑誌を創
刊させたのですが、編集長に著
名な作家・開高健さんにお願
いしたところご快諾をいただき務
めていただきました。開高さん

は残念ながら、まもなく逝去さ
れましたが、貴重なご縁をいた
だきました。政治家として有名
だった加藤紘一さんは自民党幹
事長時代に、小学校の英語教育
に取り組むためにお話をしたい
と連絡があり、直接お会いし意
見交換をして意気投合したもの
ですが、後に失脚されたのは残
念でした。私はこうしたご縁に
も恵まれました。

今、こうして振り返るとい
ろんな人に恵まれ、多くの方々に
助けていただきました。今でも
現役で後進の若手と一緒に仕事
をしています。5年ほど前に、
竹田にも帰りました。寂しくな
りましたね。大きな時代の変化
の時を迎えているようです。

クラス会・同期会

東京二八会 卒寿記念同級会



参加者(敬称略)・・・
麻生巖、工藤裕一、堀利旦、佐藤映之、
益永三生、(堀利旦さんお孫さん)、
(勢村龍三さんご子息)、遠山脩子、
(中島文久さんご息女)、中島文久、
勢村龍三

代表幹事 佐藤映之(昭28年卒)
昭和28年卒、東京二八会は去
る11月19日、有楽町「坐来」で
恒例の同級会を8名出席(内3
名付添つき)で開催した。我々、
同期は昭和一桁の最終年生ま
れ、小学生時代は窮迫した戦時
中を過ごし、敗戦とともに新学
制改革にともない新制中学第一

期生となる。幾多の変遷を経て
今年の3月で会員全員が齢九十
歳を迎える。当東京二八会は卒
業の翌年、昭和29年を初回とし
て発足、爾来、一度も休むこと
なく(コロナ期2回休)、延々、
70回を重ねてきた。最盛期は会
員70名を擁し、毎回40名前後の
出席があり実に盛会であった。
卒業35年の節目は「35年遅れの
修学旅行」と銘打ち全国から
150名を箱根の山に召集をか
け故旧を温めたこともあった。
この齢ともなれば友も減り、
外出の機会も減る。人との会議
機会も少なく、己の体調下降現
象を意識しつつ日々を送る。会
員名簿も抹消ラインが増え、残
る数は20名足らずとなった。3
年前、当会の存続を協議した。
しかし結論は2〜3人になるま
で続行であった。気力ははまだ
だ充分であるが足腰が少々不安
との意向を汲み一昨年より従来
方式を改め、
一、付添い参加歓迎(同席食事)
一、ドタキャンOK
とした。出欠の確認は複数の幹
事が手分けして無理なきよう配
慮した。老いては望郷の念が強
く、かつての友は多くとも高校
時代迄の友との思い出は他より
濃密のようである。昨年、一昨
年、6組の付添い出席があった

米寿記念 関東七耀会 懇親会開催



参加者(敬称略): 足立良一、阿南忠義、上村智幸、片岡直也、亀崎正幸、
斎藤昭義、佐藤清八、真田政子、四宮恵美子、四宮京子、四宮俊夫、徳田
昌子、藤原峯子、堀光貞枝、丸山郁代、室慎一、用正靖彦

用正靖彦(昭30年卒)
令和6年11月8日、我ら30年
卒で関東地区在住の関東七耀会
の米寿記念懇親会が「室慎一
君・四宮京子さん」兩名のお世

話で開催された。喜寿以来の開
催であったが当日は好天に恵ま
れ、久しぶりの再会者を含め17
名が参加、室君の乾杯の音頭で
始まり、美味しい料理と飲み物
に舌鼓を打ちながら各人が近況
を報告、楽しい歓談は二次会の
喫茶室まで時間の過ぎるのを忘
れて続けられ、名残りは尽きな
かったが来年元気でおいでき
るのを楽しみに帰路についた。
昭和54年卒(31期)
「還暦+4」
同級会
松本貴美子(昭54年卒)
昭和54年卒31期生の「還暦+
4」同級会が、令和6年9月22
日、大分市のアトホテル大分
で開かれました。
恩師の小原裕・宗像健一・伊
美(楠)隆司各先生と、同級生
86名が出席し、物故者に黙とう
後、開会。コロナ禍で延期と
なっただけに再会の喜びはひと
しおで、近況や思い出話に花が
咲きました。



最後に私達声楽部関係者が
リードし、関東同窓会事務局か
ら提供頂いたピアノ伴奏の音源
で校歌斉唱。久しぶりの校歌で
したが、参加者の皆さんと一体
となり高らかに歌い上げ、その
後ストームで更に盛り上がりま
した。
3年後の再会を約束して、一
次会を終えて二次会、三次会
へ。次の日にはゴルフコンペも



開催され、旧交を温めました。個人的には2泊3日の弾丸帰省でしたが、高校時代にタイムスリップしたかのような素敵な時間を過ごせました。

令和6年 第71回竹田会

後藤 里見(平5年卒)



乾杯

- ・御来賓および竹田より参加された皆様
- ・竹田市長 土居昌弘様
- ・竹田高校同窓会 服部眞二様
- ・竹田市商工会議所 高山茂明様
- ・竹田市商工会議所 姫野武俊様
- ・学校法人稲葉学園 狩生浩司様
- ・大分県東京事務所次長 安部明広様
- ・(株)佐伯ミニマーションズ会長 平岩禎一郎様
- ・広瀬武夫研究者 東京大学 笹本玲央奈様
- ・高橋宏基様
- ・船津純子様

去る11月7日(木)に第71回竹田会がアルカディア市ヶ谷で開催され、59名の参加者のもと懇親が行われました。会の初めに、この一年間の物語者に対し黙とうが捧げられました。

竹田会会長が古庄幸一会長より白坂重紀会長にバトンタッチされる事となり、古庄前会長より白坂新会長の紹介がされました。

続いて、土居竹田市長が登壇され、来賓を代表してご挨拶を戴きました。



土居竹田市長

次に服部竹田高校同窓会会長より、竹田より参加された方々をご紹介します。

懇親会は長吉泉顧問の乾杯ご発声でスタートしました。

懇親会では、昨年はタイトルマッチ直前との事でビデオレター参加となった竹田市出身のボクサー菊池真琴選手(第4代OPBF東洋太平洋女子スーパーバンタム級王者)が壇上に上がり、前回の試合の応援に對

するお礼と今後のご自身の試合予定・展望を語りました。

後半は音楽の街竹田にふさわしい内容となりました。

まず、木村天山様・辻正太郎様(関東同窓会副会長)より木村様が作詞した竹田賛歌『竹田の月は輝いて』『竹田旅情』二曲のご披露、また木村様の竹田に対する熱い思いを語っていただきました。

続いて、工藤敏暢様が尺八の演奏を行いました。尺八の音色に合わせて『ふるさと』を参加者で合唱しました。

最後は、恒例の参加者全員による『荒城の月』。佐藤眞史さんのフルート演奏に合わせて歌い上げ、来年の再会を約束して閉会となりました。

第72回竹田会は令和7年11月6日(第一木曜日)、アルカディア市ヶ谷での開催を予定しております。



『荒城の月』合唱

昭和52年卒(29期) 入学50周年記念 同期会

本年1月11日に竹田市内において、入学50周年記念と銘打った同期会が行われ63名(恩師含む)が集いました。卒業記念ではなく入学記念は珍しいです。コロナ禍でリズムが狂っても、何としても開催するという幹事の皆さんのご尽力が偲ばれます。(市内・一竹において)



剣道部OB会

2月15日(土)に剣道部のOB会が都内で行われました。現在も現役の剣士として稽古を続けているメンバーも多く、伝統が継承されている剣道部でした。



参加者(敬称略)・・・
那須亀、首藤和彦、姫野純二、佐保哲郎、白石徹、池内昭二、渡辺隆

皆さまからの寄稿をお待ちしています

同期会やクラス会、部活OB会、ゴルフ会などなど、2~3名の集まりでもけっこうですので、写真とともに寄稿をお願いします。関東地域だけでなく竹田での集まりも大歓迎です。お待ちしております!!

提供先: 広報委員会 衛藤 淳(昭52年卒)
090-9159-7231
etoj@hotmail.com

令和6年度 年間収支

項目	R6年 確定
総会収入	
総会会費	1,336,000
総会祝儀	136,000
売店収入	0
販売手数料	0
小計	1,472,000
総会費用	
ホテル支払	1,921,381
来賓土産/御礼	68,772
持込酒・水代	35,218
本部売店仕入	0
イベント費	60,000
記念イベント	0
会員土産代	0
DVD諸経費	0
印刷費(案内状/プログラム)	110,300
通信費	25,323
備品その他	24,694
その他諸掛	54,869
小計	2,300,557
総会収支	▲828,557
(同窓会運営関連)	
維持会費収入	1,430,000
経常費用	
会報費	248,375
会議費	101,641
名簿費	57,080
HP費	55,209
幹事助成金	40,000
組織活動費	52,790
慶弔費	8,393
寄付金	0
新規事業	0
事務通信費	103,565
通信費	5,868
諸会費	40,000
手数料	40,502
荷造運賃	4,000
事務消耗品	13,195
母校支援費	29,986
母校120周年事業(H29)	0
小計	697,039
維持会費収支	732,961
雑収入	1,137
寄付金収入	0
合計	▲94,459
次期繰越金	3,650,490

学年幹事一覧

卒業年次	氏名	★=新任
昭和26卒	濱口 鈴子	
昭和27卒	津田 美枝	
昭和28卒	益永 三生	
昭和30卒	用正 靖彦	
昭和31卒	河野 智治	高橋 房枝
昭和32卒	高橋 勝和	藤原 保範
昭和34卒	服部 恭一	市村 真一
昭和35卒	平手 肇	
昭和36卒	吉村 征二郎	
昭和37卒	桃溪 謙次郎	
昭和38卒	統 勝三郎	
昭和39卒	安藤 紀	
昭和40卒	田部 厚	大坂 好美
昭和41卒	中神 章彦	後藤 章一
昭和42卒	堀 正孝	
昭和43卒	甲斐 文夫	工藤 和博
昭和44卒	伊東 忠明	高橋 博子
昭和45卒	川口 弘展	原田 健治
昭和46卒	日高 慶記	保坂 斎子
昭和47卒	袖須 潔	後藤 和典
昭和48卒	★水本 忠土	山村 恵美子
	★直木 剛	
昭和49卒	村上 泰子	田北 豊明
昭和50卒	工藤 孝士	佐藤 浩
昭和51卒	飯田 良典	鈴木 敬子
昭和52卒	内藤 賢一	後藤 章仁
昭和53卒	宮木 勢	渡辺 隆
昭和54卒	佐保 哲郎	
昭和55卒	垣内富貴代	板井 浩司
昭和56卒	武内 宏文	岡本 紀子
昭和57卒	佐藤 孝一	★干潟 康夫
昭和58卒	森 純洋	柳川 美砂江
	★森 雅洋	
昭和59卒	衛藤 寛	内川 美紀
昭和60卒	川島 秀夫	米野 良恵
昭和61卒	★海老納 秀則	
昭和62卒	竹下 賢仁	戸林 知輝
昭和63卒	肥田 雅子	
平成3卒	★廣沢 るみ	波多野寛昭
平成4卒	首藤 正幸	田島 順
平成5卒	後藤 里見	★内田 威
平成6卒	★工藤 大	★後藤 信秀
平成7卒	古庄 実	
平成10卒	志賀 昭靖	
平成11卒	山口 慶明	井筒 剛司
平成12卒	★服部真太郎	
平成13卒	工藤 一瀬	山口 明
平成15卒	工藤 佑允	
平成20卒	田部 創	★堀 佑希奈

「学年幹事」さらに充実

各学年ごとの「学年幹事」は同窓会の活動を支える大事な役割を担っていただいております。昨年来、役員が中心となつて学年幹事を充実させる活動に集中的に取り組みました。その結果、ご覧のように11名の新しい学年幹事さんが誕生しました。ご紹介するとともに、ブラントとなっている学年もまだまだありますので、さらなる充実を図ります。

訃報

慎んでお知らせ申し上げます。心から冥福をお祈りいたします。

物故者御芳名

村井 笑子様(昭29年卒)	2023年12月2日没	生野 良友様(昭32年卒)	2023年12月16日没
東藤 精一様(昭27年卒)	2023年8月4日没	森田理恵子様(昭45年卒)	2012年3月26日没
大和田美奈子様(昭39年卒)	2017年12月5日没	荒牧 治様(昭15年卒)	2023年1月21日没
※順不同	2025年1月2日現在		

本間 吉久様(昭28年卒)	2024年3月31日没
小代 孝様(昭29年卒)	2023年6月24日没
後藤 國隆様(昭31年卒)	2020年没
安井 宏治様(昭32年卒)	2023年8月23日没
羽田野正二様(昭49年卒)	2020年3月27日没
伊東 照子様(昭38年卒)	2023年7月1日没
新城志浦子様(昭27年卒)	2023年2月27日没
孫田 肇様(昭40年卒)	2023年1月29日没
大友瑠璃子様(昭26年卒)	2024年2月29日没
村上 治人様(昭28年卒)	2023年5月1日没
豊岡恵美子様(昭23年卒)	2023年1月30日没
加藤 憲明様(昭27年卒)	2023年6月5日没
広瀬 順二様(昭43年卒)	2024年1月8日没
久東 貴憲様(昭27年卒)	2023年8月1日没
伊東 昭英様(昭20年前卒)	2022年2月21日没
江口 久枝様(昭37年卒)	2024年1月3日没
菅 真一様(昭40年卒)	2023年没
伊豆丸 弘様(昭35年卒)	2024年12月没

※事務局へ連絡をいただいた方々を掲載させていただきました。

●連絡先●
〒181-0003
東京都三鷹市北野2-1-22
(広報委員長) 衛藤 淳 宛
TEL 090-9159-7231
FAX 0422-43-7762

E-mail :
etoj@hotmail.com